

令和7年4月7日発行
 京都府丹後保健所 保健課
 (丹後地域包括ケア推進社)

1 丹後地域オレンジロードつなげ隊に係るアンケートについて

令和6年度第2回圏域連絡会を书面開催とし、アンケートを実施しました。隊員の皆様、ご多忙中にも関わらず御協力いただきありがとうございました。

本紙では、アンケートの簡単な概要と担当者の所感をお伝えします。



◇ 認知症の方や御家族に関わった際に、心に残った言葉やエピソードについては、なるべく書いていただいたままで、掲載をさせていただきます。

隊員の皆さんの日々の対応で、心が温くなる瞬間を、お裾分けいただいた気持ちでした。ありがとうございます。

◇ 啓発活動について、多くの方がイベント等でリーフレット等を配布する活動をイメージされていると思いますが、事業所や地域での言葉掛け・対応、認知症についてのちょっとした会話、など日々の生活の中で正しい知識や対応の仕方を同僚、家族、地域住民に伝えることも啓発になります。

イベントに参加出来なくて、申し訳ないと記載されている方が数人おられました。普段から自分の出来ることをしていただけるのが一番です。

丹後地域は隊員数が府内一です。多くの人に認知症の正しい知識や対応方法について、広めていただけることを期待します。



◇ 今後やってみたい啓発活動では、リーフレット等の配布が最も多かったですが、令和7年度より当事者の思いを聞き、共に活動することが求められており、単なるリーフレットの配布ではなく、対話や説明といった一歩進んだ手法が求められます。

したがって、当事者と企画段階から一緒に取り組めるような啓発活動をご検討いただきたいです。上記の記載と相反することのように思われますが、身近にいる当事者の声を一度聞いてみて、どのような啓発が必要なのか一緒に考えてみて欲しいです。

令和7年度第1回圏域連絡会でもそれをテーマにしたいと思っています。



☆ オレンジロードつなげ隊になったきっかけは、職場や上司の勧めだった人が大多数を占めていましたが、認知症に関心を持って自己研鑽に励み、職場や地域への啓発に取り組んでいた方が多く、感謝申し上げます。



☆ チームオレンジについて、ご存じの方もありませんでしたが、まだまだ浸透していません。地域におられるサポーターや当事者と一緒に、地域で一緒に過ごせる取り組みが広まれば良いと思います。

例として、他地域では、地域全体がチームオレンジ、喫茶店の常連でチームオレンジ、囲碁仲間が集まるチームオレンジ、など当事者と一緒に活動されている地域があります。

地域それぞれの形があるので、「これってチームオレンジ？」と思われたら市町、保健所に一度お尋ねください。

☆ 便利グッズは、GPS 関連の物が多く挙げられました。「所在が分かること」が安心につながる事が伝わってきました。

また、異性の介護者の場合、トイレ等で苦勞されていることも分かりました。企業等を巻き込んで開発できたら良いです。どなたか、お知り合い居ませんか？



☆ 府や市町への要望もたくさん寄せられました。

隊員自身の研鑽、隊員同士の連携、住民への啓発についての話し合いなど、今後もいろいろな形で事業を進めていきたいと思っています。

認知症の正しい知識を普及啓発するボランティアであることを基本に、隊員それぞれの動き方で活動していただければと思っています。



以上、今後も定期的にアンケートを実施させていただく予定ですので、お手数ですが、よろしく御協力ください。